長野県立美術館
Nagano Prefectural Art Museum

関係者各位

PRESS RELEASE 2022.9.27（11.01 更新）

戸谷成雄 彫刻 －ある全体として

会期：2022 年 11 月 4 日（金）― 2023 年 1 月 29 日（日）

会場：長野県立美術館　展示室 1・2・3

日本を代表する現代彫刻家・戸谷成雄　出身地における初めての個展

戸谷成雄（1947－・長野県上水内郡小川村生まれ）は、日本の現代彫刻を代表する存在として、「彫刻とはなにか」を問う根源的な思索を深めながら、精力的に作品を発表しています。

長野県での初めての個展となる本展では、戸谷成雄の初期から近年の作品まで代表作を含め約 30 点を、年代順ではなく展覧会のコンセプトに合わせて展示します。特に戸谷の壮大な彫刻観へのいとぐちとして、「表面」や「構造」といった独自の彫刻概念に、日本語の言語構造への深い思索が反映されていることに焦点を当てます。この思索は、戸谷自身の言葉にしばしば表明されてきましたが、作品を目の前に語られる機会はあまり多くありませんでした。日本の社会について戸谷が常に抱く問題意識は、言語学や人類学の方法論をもちいて社会の構造のありかたを問うという、　世界的な思想のながれに合致し、彫刻家自身の彫刻概念と共振しました。

1980 年代半ばから始められた「森」シリーズに見られるように、チェーンソーで木材の表面を刻んだ大型の木彫作品がよく知られていますが、作品の基本的な考え方は、戸谷が彫刻家をこころざした 1970 年代にすでに形成されました。当時、国内外で展開されていた現代美術では、旧来の絵画や彫刻が事実上否定され、美術そのものの在り方が問われていました。戸谷はいわゆる制度として解体された彫刻を、時代や地域の枠を乗り越え、その起源から見つめ直しています。

戸谷成雄＜射影体＞ 2004 年 197x310x67cm 木、灰、アクリル 作家蔵 Copyright the artist Courtesy of ShugoArts

展覧会概要

戸谷成雄 彫刻 ―ある全体として

会　　期：2022 年 11 月 4 日（金）～2023 年 1 月 29 日（日）　　展覧会担当：鈴木・池田

会　　場：長野県立美術館　展示室 1・2・3　　開館時間：9:00～17:00（展示室入場は 16:30 まで）

休　館　日：毎週水曜日（ただし、11 月 23 日は開館）、11 月 24 日（木）、年末年始（12/28～1/4）

主　　催：長野県、長野県立美術館　共　催：長野県教育委員会

協　　力：シュウゴアーツ、ケンジタキギャラリー

後　　援：長野市、長野市教育委員会、長野商工会議所、善光寺、長野県芸術文化協会、長野県美術教育研究会、（公財）八十二文化財団、（公財）ながの観光コンベンションビューロー、JR 東日本長野支社、信濃毎日新聞社、SBC 信越放送、NBS 長野放送、TSB テレビ信州、abn 長野朝日放送、FM 長野、INC 長野ケーブルテレビ

観　覧　料：一般 1000（900）円、大学生及び 75 歳以上 700（600）円、高校生以下又は 18 歳未満無料

※（　　）内は 20 名以上の団体料金　※東山魁夷館及び NAM コレクション展との共通料金 一般 1,500 円、大学生及び 75 歳以上 1,000 円

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と、付き添いの方 1 名は無料

■作家プロフィール

戸谷成雄（とや・しげお）

1947 年長野県上水内郡小川村生まれ。愛知県立芸術大学大学院彫刻専攻修了。武蔵野美術大学彫刻科名誉教授。初個展（1974 年）で発表した＜POMPEII・・79＞など、彫刻概念の再解釈を試みたコンセプチュアルな作品を発表後、チェーンソーで木材を刻む木彫作品を中心に、1984 年から＜森＞シリーズ、1994 年から ＜《境界》から ＞シリーズ、2000 年前後から ＜ミニマルバロック＞シリーズなどを展開。ポスト・ミニマリズム、もの派以降解体された「彫刻」の再構築と新たな可能性を探る。

主な美術館での個展として広島市現代美術館（1995 年）、愛知県美術館（2003 年）、ヴァンジ彫刻庭園美術館（2011 年）、武蔵野美術大学 美術館・図書館（2017 年）ほか。シュウゴアーツやケンジタキギャラリーなど画廊での個展多数、継続的に新作を発表している。ヴェネツィア・ビエンナーレ（1988 年）参加以降、光州ビエンナーレ（2000 年／アジア賞受賞）、キエフ国際ビエンナーレ（2012 年）など多くの国際展にも参加し、日本の現代彫刻を代表する存在として評される。

「埼玉県立近代美術館巡回展情報」

戸谷成雄 彫刻

会　　期：2023 年 2 月 25 日（土） ～ 5 月 14 日（日）　休館日：月曜日（5 月 1 日は開館）

開館時間：10:00 ～ 17:30 （展示室への入場は 17:00 まで）

観 覧 料 ：一般 1200 円（960 円）、大高生 960 円（770 円）※（　　）内は 20 名以上の団体料金

本展は、戸谷の出身地である長野県と制作活動の拠点である埼玉県との、作家ゆかりの地にある美術館での開催となります。会場ごとに出品作品を一部入れ替え、戸谷の彫刻世界を多角的に検証します。埼玉県立近代美術館では、代表作「森」シリーズに至るまでの模索に焦点を当てます。

■本展のみどころ

①エントランスで体感、戸谷成雄作品のテーマ

②展覧会コンセプトと共振するインスタレーションを全展示室にて展開

■展示構成

エントランスで体感、戸谷成雄作品のテーマ

正面エントランスの吹き抜けの空間には、＜雷神―09＞（2009）を展示します。木が雷に打たれた姿から着想されたもので、各階から見える作品の姿はそれぞれ異なります。彫刻の表面に無数に刻まれている傷は、「視線」によって掘り出されたものが彫刻に　なるという戸谷の思考にもとづいて、交差する「視線」と、「表面・構造」との関係を表しています。＜雷神―09＞は圧倒的なスケールで、戸谷成雄作品の根源的なテーマの体感をもたらします。

戸谷成雄＜雷神-09＞ 2009 年 932×170×155cm 木、灰、アクリル、ガラス 作家蔵
撮影：山本糾（ヴァンジ彫刻庭園美術館「戸谷成雄 洞穴の記憶」展示風景）

第１展示室（吹き抜けの展示室）:「死」の世界

死のモニュメントとしての＜森Ⅸ＞（2008）、同じく死のモニュメントである墓を表す＜≪境界≫からⅢ＞（1995-96）、地上と地下を結ぶ＜地霊Ⅲ-a＞（1991）といった作品群が、《雷神―09》同様に「視線」と「表面・構造」との関係を表しながら、吹き抜けの展示室にて「死」の世界を暗示します。「死」は他者がいなければ実感することができず、それゆえ自分と他者との関係に意識を向けるきっかけのひとつとなります。他者との世界の共有は言語をめぐる
問題とも関わってきます。1 階では作品の間を歩き回りながら、2 階からは展示室全体を俯瞰していただけます。

戸谷成雄＜森Ⅸ＞2008 年 220×30×30cm(30pcs) 木、灰、 アクリル ベルナール･ビュフェ美術館蔵
撮影:山本糾 （ヴァンジ彫刻庭園美術館「戸谷成雄 洞穴の記憶」展示風景）

第２展示室：初期作品を中心に――彫刻の起源

戸谷作品に通底する「彫刻の起源」への初期の模索を中心にご紹介します。名実ともに戸谷作品の起点に位置付けられる＜POMPEII‥79＞（1974）は、古代都市・ポンペイに着想を得ており、ポジとネガといった対概念の中間として「表面」の概念を表すとともに、他者との世界の共有と個との関係を問いかけます。同様の関係を考察した同時期の他作品（現存せず）も写真でご紹介します。「視線」の「構造」についての初期の模索は、時代をくだって＜連句的Ⅱ＞において、かたまりとしての「表面」の模索は、＜視線体－積＞などで繰り返されます。「連句的」というタイトルは、このように螺旋を描くようにして思索を深めていく戸谷の彫刻観を示しているかのようです。さらに戸谷は、彫刻における人体の表現を、彫刻の起源と人間の存在を結びつけるものと捉えていました。以後、「表面」のテーマと関係づけられていくのは、壁側に人物像の影がかたどられた＜射影体＞が示すとおりです。

戸谷成雄＜POMPEII‥79＞〈Part1〉1974/1987 年 15×60×60cm、45×45×170cm(4pcs) コンクリート（板） 作家蔵 撮影:山本糾

第３展示室：モニュメンタルな作品を中心に――「表面・構造」と「言語」

＜森の象の窯の死＞（1989）は、作品タイトルに助詞「の」が意図的に繰り返されており、タイトルの意味そのものに言語に限定しえない空間表現が与えられ、戸谷成雄の彫刻概念「表面・構造」が「言語」と結びつけられている例です。＜双影体Ⅱ＞（2001）は、鏡像関係にある２つの直方体による「表面・構造」にあえて「間」が作られており、空間の余韻を感じさせます。毛筆を使ったドローイングや浮彫彫刻での「表面・構造」を問う展開も、スケールの大小にかかわらず、戸谷作品に通底する深い思索の存在を表しています。

戸谷成雄＜森の象の窯の死＞ 1989 年 230×560×62cm 木、灰、アクリル 東京都現代美術館蔵
撮影:山本糾

本展のキャッチフレーズの「ある全体として」は、戸谷が自身の彫刻について述べるときに頻繁に用いる言葉でもあります。「ある」は「或る」や「在る」を意味しており、「大きな一つのかたまり」を意味する「全体」にかかると、矛盾をはらんだフレーズとなります。まさに戸谷の彫刻観の複雑さを如実に物語る言葉といえるでしょう。

※画像提供をご希望の場合は、別紙「広報用画像申込書」に必要事項をご記入のうえ、メールまたはファックスにてお申し込みください。

広報用画像

①戸谷成雄＜雷神-09＞ 2009 年 932×170×155cm 木、灰、アクリル、ガラス 作家蔵
撮影：山本糾 （ヴァンジ彫刻庭園美術館「戸谷成雄 洞穴の記憶」展示風景）

②戸谷成雄＜森Ⅸ＞ 2008 年 220×30×30cm（30pcs） 木、灰、 アクリル ベルナール・ビュフェ美術館蔵
撮影：山本糾 （ヴァンジ彫刻庭園美術館「戸谷成雄 洞穴の記憶」展示風景）

③戸谷成雄＜POMPEⅡ‥79＞〈Part1〉 1974/1987 年 15×60×60cm、45×45×170cm(4pcs) コンクリート(板) 作家蔵 撮影：山本糾

④戸谷成雄＜視線体一積＞ 2021 年 142×171×201cm、 木、灰、アクリル 作家蔵
Copyright the artist Courtesy of ShugoArts

⑤戸谷成雄＜射影体＞ 2004 年 197x310x67cm 木、灰、アクリル 作家蔵
Copyright the artist Courtesy of ShugoArts

⑥戸谷成雄＜森の象の窯の死＞ 1989 年 230×560×62cm 木、灰、アクリル 東京都現代美術館蔵 撮影：山本糾

⑦戸谷成雄＜双影体Ⅱ＞ 2001 年 73×84×850cm 木、灰、アクリル 愛知県美術館蔵
撮影：武藤滋生 Courtesy of ShugoArts （ライスギャラリーby G2 展示風景）

長野県立美術館
Nagano Prefectural Art Museum

長野県立美術館　行

メール： nam-pr@naganobunka.or.jp　　FAX ：026-232-0050

広報用画像申込書

戸谷成雄 彫刻 ―ある全体として

会期：2022 年 11 月 4 日（金）～2023 年 1 月 29 日（日）

■本展覧会の広報用写真を用意しております。ご希望の写真の左欄に○をつけて、メールまたはファックスにてお申し込みください。写真はデータにてお送りします。（下記以外の作品画像をご希望の場合はご相談ください。）

○をつけてください↓	番号	画像名
	①	戸谷成雄＜雷神―09＞ 2009 年　932×170×155ｃｍ　木、灰、アクリル、ガラス　作家蔵 撮影：山本糾　（ヴァンジ彫刻庭園美術館「戸谷成雄 洞穴の記憶」展示風景）
	②	戸谷成雄＜森IX＞2008 年　220×30×30ｃｍ（30pcs） 木、灰、アクリル　ベルナール・ビュフェ美術館蔵 撮影：山本糾　（ヴァンジ彫刻庭園美術館「戸谷成雄 洞穴の記憶」展示風景）
	③	戸谷成雄＜POMPEII‥79＞〈Part1〉 1974/1987 年 15×60×60cm、45×45×170cm(4pcs)　コンクリート（板）　作家蔵　撮影：山本糾
	④	戸谷成雄＜視線体―積＞ 2021 年　142×171×201cm、　木、灰、アクリル 作家蔵　Copyright the artist Courtesy of ShugoArts
	⑤	戸谷成雄＜射影体＞ 2004 年　197x310x67cm　木、灰、アクリル 作家蔵 Copyright the artist Courtesy of ShugoArts
	⑥	戸谷成雄＜森の象の窯の死＞ 1989 年　230×560×62cm　木、灰、アクリル 東京都現代美術館蔵　撮影：山本糾
	⑦	戸谷成雄＜双影体Ⅱ＞2001 年　73×84×850ｃｍ　木、灰、アクリル　愛知県美術館蔵 撮影：武藤滋生　Courtesy of ShugoArts　（ライスギャラリーby G2 展示風景）

●貴社についてお知らせください

貴社名　　／ 媒体名（雑誌、番組名等）

ご担当者名　　／ 所属部署

ご住所　〒

電　話　　／ FAX

E-mail

ご掲載・放映の予定日があればお知らせください。　　月　　日（　　）　に発行、または放映予定

※掲載紙・誌を 1 部ご恵贈いただければ幸いです。

■関連イベント

※新型コロナウイルス感染症等、諸般の事情により、会期等に変更が生じる場合があります。最新情報は美術館ホームページをご覧ください。

学芸員によるギャラリートーク
日　時：① 11 月 26 日（土）14：00～15：00
　　② 12 月 24 日（土）14：00～15：00
会　場：本館展示室 1 入り口集合
参加費：無料（要観覧券）・事前予約不要

戸谷成雄 彫刻 ―ある全体として ポスター画像

同時開催

●長野県立美術館コレクション展（本館・東山館共通）
本　　館：NAM コレクション展第Ⅲ期　2022 年 9 月 15 日（木）～11 月 8 日（火）
　　NAM コレクション展第Ⅳ期　2022 年 11 月 10 日（木）～2023 年 1 月 17 日（火）
　　NAM コレクション展第Ⅴ期信濃デッサン館コレクション展
　　2023 年 1 月 19 日（木）～3 月 14 日（火）
東山魁夷館：第Ⅳ期　2022 年 10 月 6 日（木）～12 月 6 日（火）
　　第Ⅴ期　2022 年 12 月 8 日（木）～2023 年 2 月 7 日（火）
観覧料：一般 700（600）円、大学生及び 75 歳以上 500（400）円
※企画展との共通券／一般 1,500 円、大学生及び 75 歳以上 1,000 円

●NAM アーカイブ＆リサーチ 2022　信州の生活と版画－上野誠が見つめた戦後
会期：2022 年 10 月 7 日（木）～2023 年 2 月 14 日（火）
会場：1F オープンギャラリー　観覧料：無料

●アートラボ 2022　第Ⅲ期　「荒木優光　展」
会期：2022 年 1 月 3 日（木・祝）―2023 年 1 月 29 日（日）
会場：2F アートラボ　観覧料：無料

お問い合わせ・資料リクエスト先
長野県立美術館 広報・マーケティング室
TEL：026-232-0052 /　E-MAIL：nam-pr@naganobunka.or.jp